

斑鳩の里—三塔巡り—



先日、奈良のお寺に詳しい方に、「斑鳩三塔」を案内していただきました。法隆寺の五重塔、法輪寺と法起寺の三重塔です。

日本で初めての『世界文化遺産』であり、木造建築物としては日本最古です。今では、この三塔を全て見る場所は限られています。昔の斑鳩の里は、どこからみても、三塔が聳え、素晴らしか



ったでしょう。

法輪寺の塔は、昭和 19 年に雷により焼失、昭和 50 年再建されました。

法隆寺の五重塔の相輪は、高さ約 10m で、下部には、雷をよせつけず、大風を切るといわれる、長さ 2m もの大鎌が四方につけられています。



法隆寺に行かれましたら、よく見てきてください。昔、台風がくると鎌を長い竿の先につけて立てていた光景を思い出しました。



また、日本最古の井戸も見学してきました。法輪寺は斑鳩の里でも北方にあり、土地の名によって三井寺(みいでら)ともよばれていました。「和州三井寺」と刻印した瓦で塀の屋根が葺かれていました。



三井(みい)

の地名は古く、聖徳太子が飛鳥の里より三つの井戸をこの地にお移しになったところから起こったと伝わっています。最古の井戸は、法輪寺の正面生け垣を左の方向に歩いた所にありましたが、案内板はありませんでした。一見の価値はあります。



平成 25 年 5 月 20 日